

# 「アクティブ・ラーニング型授業」の

## 進め方に関する研究【2年研究の1年次】

【研究担当者】 泉田 学 鈴木 徹

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate.jp

### ■「アクティブ・ラーニング型授業」づくりにあたり、教員個々に求められること

- ① ある特定の教授・指導方法を取り入れるのではなく、授業づくりを見つめ直す4つのポイントを踏まえつつ自己のパーソナリティや生徒の実態、学習内容に応じて適切な手法を取り入れていくこと。
- ② 次の視点にたった「教授・指導方法の不断の見直し」を図ること。
  - ・学習プロセスの中で、課題の発見・解決を図る「深い学び」が実現できているかどうか。
  - ・他者との理解や考えの交流を通して、自分や集団の考えを広げ深める「協働的な学び」が実現できているかどうか。
  - ・学習活動の見通しと振り返りを大切に「主体的な学び」を実現できているかどうか。



生徒たちを、生涯自ら学び続ける「アクティブ・ラーナー」に

学んだ知識を活用しながら、適確に判断し、自分で発見した課題や社会の課題を他者と協働しながら解決していける人間づくりを目指しましょう。

先生方は、「アクティブ・ラーニング型授業のデザイナー」に

「アクティブ・ラーニング型授業」を提供していくために、先生方自身が主体的・協働的に学び、必要な指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に提供していくいわば授業づくりについての「カリキュラム・マネジメント」が求められます。



### ■研究の成果と課題（2年研究の1年次）

本研究1年次の今年度は、授業づくりの理論をガイドブックにまとめるとともに、岩手県立花巻北高等学校、岩手県立大野高等学校のご協力をいただき、高等学校における授業実践を行いました。

#### 【成果】

- 本研究理論を基にした授業実践は、高等学校における生徒の主体的・協働的な学びに有効に機能することを確認できたこと。

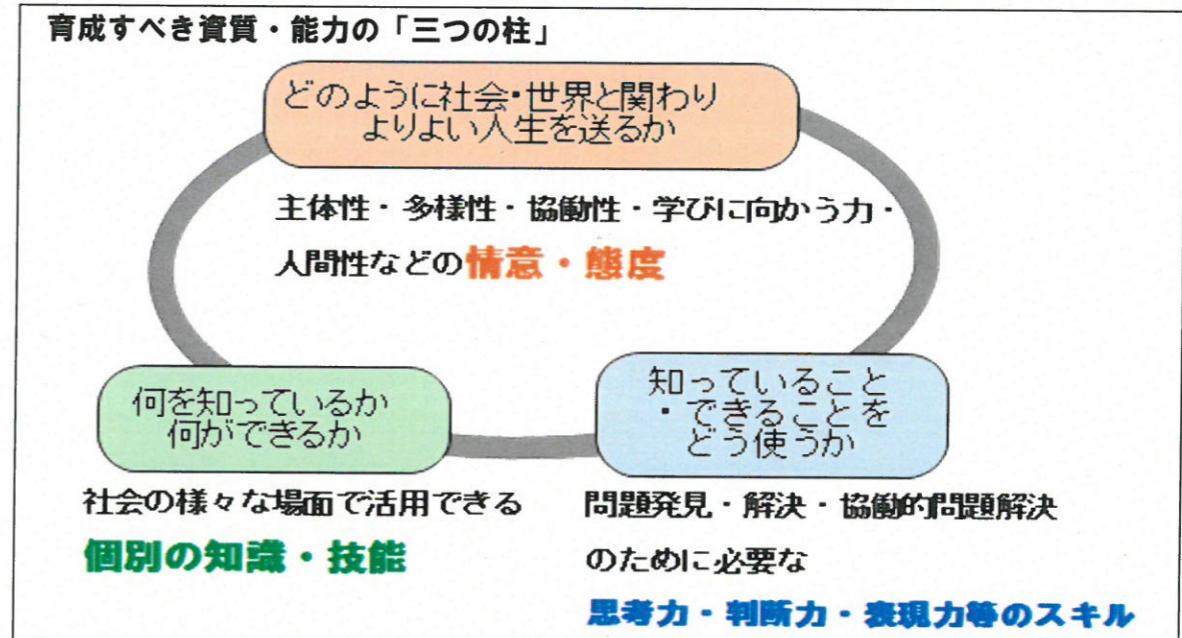
#### 【課題】

- 中学校における授業実践と検証を行うとともに、本研究理論に基づいた実践を継続することが目指す思考力・判断力・表現力の育成につながっていくかについて検証すること。
- 授業づくりを見つめ直す各ポイントの内容について研究を継続し、ガイドブック内容の更新を図ること。

※今後も最新の情報を積極的に取り入れつつ、様々な方面の方々からご意見を伺いながら、改訂して参りたいと考えております。ご協力をお願い致します。

■研究報告書とガイドブックは、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。  
<http://www1.iwate-ed.jp/tantou/kyouka/new%20index%20shakai.html>

### ■次期学習指導要領下で育成すべき資質・能力の「三つの柱」と本研究のねらい



「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会における論点整理補足資料」(平成27年8月)を基に作成

「三つの柱」を一体として育てていくためには「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業づくり（「アクティブ・ラーニング型授業」）が必要

授業づくりの理論をガイドブックにまとめ、授業実践により有効性を明らかにする

### ■本研究における「アクティブ・ラーニング型授業」の定義と意義

#### 「アクティブ・ラーニング型授業」

本研究においては「アクティブ・ラーニング」を「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ中で互いの考えを伝え合い、自分や集団の考えを広げたり深めたりする学習」とし、このような学びを取り入れた授業を「アクティブ・ラーニング型授業」と呼びます。

主体的に社会の形成等に参画しようとする態度等の育成

「思考力・判断力・表現力」の育成

「基礎的・基本的な知識や技能」の活用と習得の促進

## ■「アクティブ・ラーニング型授業」づくりガイドについて

平成27年版  
 中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科における  
**「アクティブ・ラーニング型授業」**  
 づくりガイド



本ガイドは、次期学習指導要領改訂に向けて検討が進められている「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業づくりに視点をあて作成したものです。目指す資質・能力の育成と学習内容の確かな定着を一体として実現するためにどのような学習・指導法が求められているのか、そのためにどのような実践導入上の工夫が必要なのかについて、公的機関等の動向を鑑み、現時点における考えをまとめものです。

- I 「アクティブ・ラーニング」とは
- II なぜ今「アクティブ・ラーニング」なのか
- III 中学校社会科及び高等学校地理歴史・公民科における「アクティブ・ラーニング」の意義
- IV 「アクティブ・ラーニング」の視点で授業デザインを見つめ直す4つのポイント
- V 実践事例(高等学校編)

## ■「アクティブ・ラーニング」の視点で授業デザインを見つめ直す4つのポイント

★4つのポイントについての次の様に考えます。  
 現行の学習指導要領における実践上の課題として「主体的に社会の形成に参画しようとする態度の育成」、「資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現すること」があげられています。この課題の解決にあたっては、ポイント3、ポイント4にあげた「課題解決的な学習」、「考察し表現する活動」の充実が求められます。また、そのためには、ポイント1にあげた「指導言等」を有効に機能させること、ポイント2にあげた「学習形態・手法」を効果的に取り入れていくことが不可欠であると思います。

4つのポイントそれぞれが有効にそして、バランスよく機能することで、その相乗効果により本ガイドが目指す「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業づくり（「アクティブ・ラーニング型授業」）が実現できるものと考えます。

★4つのポイントを基に、次の様な手順で授業づくりの見直しを図ることが大切に思います。

- ① 「何が出来て、何が出来ないのか」という”強み”と”弱み”を明確にする。
- ② ”弱み”として捉えたものから、ポイントをしぼり、実践する。
- ③ 生徒の反応を見取ったり、意見を聞いたりして、授業づくりの見直しを行う。

■「指導言（説明・指示・発問・助言）」を機能させる

- ◆分かりやすい「説明」
- ◆的確な「指示」
- ◆意図的な「発問」
- ◆適切な「助言」

■互いの考えを安心して表現できる「雰囲気づくり」に努める

■授業に「学習活動の目標」を設定する

<例>

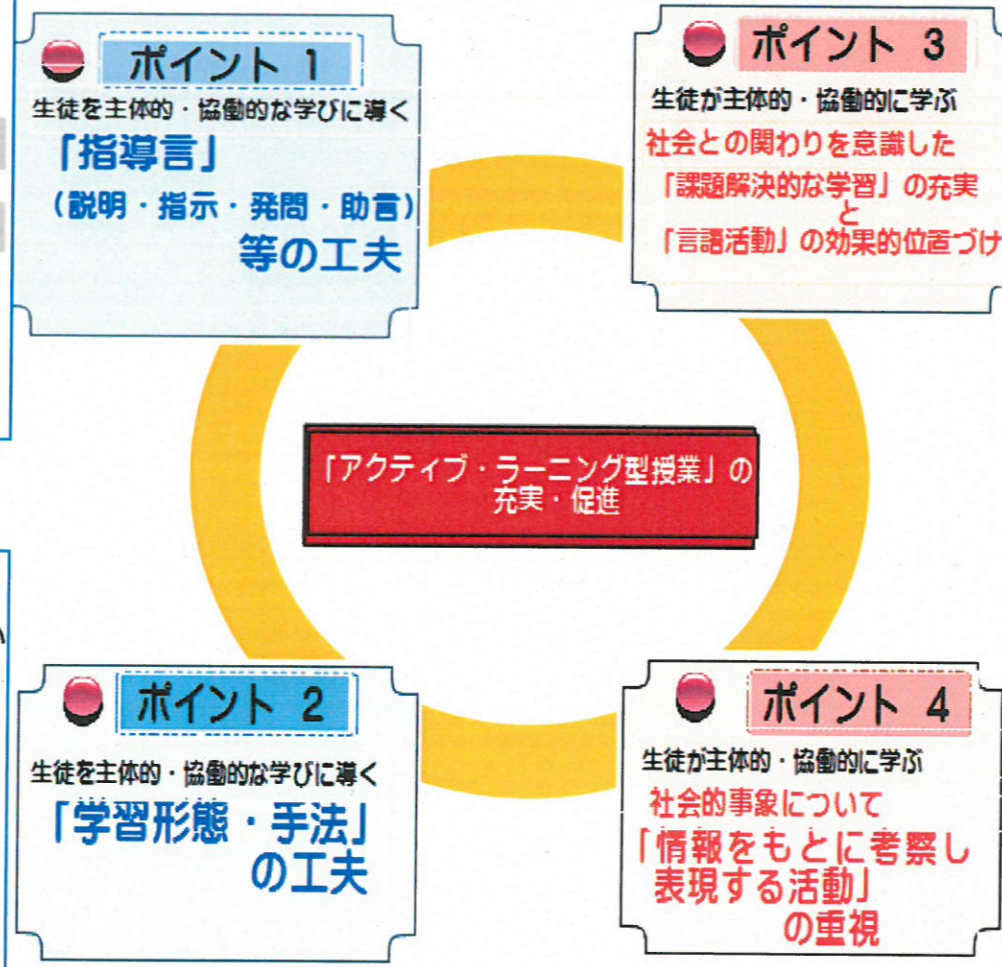
- ★「説明する」
- ★「聞く（質問する）」
- ★「協働する（協力・貢献する）」

■「話し合い」を機能させる

- ◆「ペア（1対1）」や「グループ（4人程度）」による話し合い
  - 何について話し合うのか
  - どのように話し合い、まとめればよいのか
- ◆「全体（学級・科目選択者）」での話し合い
  - 生徒の発言に「問い返す」
  - 各生徒の理解や考えを「繋ぐ」

■学習内容の定着を助ける「教え合い」活動を取り入れる

- 身振り・手振りを加え、声に出して「説明する」



■【導入】課題意識・学習の見直しをもつ。

- ◆「読む」⇒ 資料を読み取り課題意識をもつ。
- ◆「話す」⇒ 自分の考えを言葉にする。
- ◆「聞く」⇒ 他の生徒の考えを聞く

■【展開1】自分なりの理解や考えをもつ。

- ◆「読む」⇒ 資料から分かることを読み取る。
- ◆「聞く」⇒ 他の生徒から話を聞き、情報を得る。
- ◆「書く」⇒ 分かったことを文章や図表に表現する。

■【展開2】理解や考えを広げる、深める。課題を解決する。

- ◆「話す」⇒ 考えを交流する。
- ◆「書く」⇒ 理解や考えを文章化する。

■【終末】学習内容及び学習プロセスを振り返る。

- ◆「書く」⇒ 自分の理解や考えの深まりや変容について表現する。
- ◆「話す」⇒ 「書く」活動で表現した内容を自分の言葉で説明する。

③「表現」 様々な方法やスキルを活用して表現する。

- ◆図表で「表現」する。
- ◆文章で「記述（論述）」する。
- ◆相手に分かりやすく「説明」する。

②「考察」 情報を整理・分析して考える。

- ◆比較する。
- ◆関連づける。
- ◆総合する。
- ◆再構成する。

①「情報」 課題解決に必要な情報を集める。

- ◆既存の「知識・理解」
- ◆資料等から得た「情報」